

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	3471300444
法人名	医療法人 敬和会
事業所名	グループホーム那賀川たんぼぼ
所在地	徳島県阿南市那賀川町今津浦宮面71-1 (電話) 0884-42-4433

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 10 月 31 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 16 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤: 9人、非常勤: 4人、常勤換算: 1F6.6人、2F6.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,300 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	420 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 16 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤野医院、福崎歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は木造2階建てで田園風景が広がる自然豊かな場所にある。管理者と全職員は利用者の尊厳が保持できる生活を支援し、優しい笑顔で接している。食事は利用者と職員と一緒に楽しい雰囲気の中で食べている。職員は毎月、近隣住民を訪問し、広報誌「那賀川たんぼぼ」を配布しており、地域との交流が図られ信頼関係の構築に繋がっている。運営推進会議もネットワークが広がり、参加者が増え、サービスの向上に活かされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」、「評価の意義の理解と活用」、「現状に即した介護計画の見直し」は全て改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はじめ全職員は評価の意義を理解し、外部評価での課題や自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、老人会会長、婦人会会長、近隣住民、消防団団長と団員、警察署職員、市町村職員、地域包括支援センター職員、保健所職員、併設事業所の職員などが参加している。会議では参加者からの質問や意見、要望等を出し合い、積極的に協議されている。防災訓練や感染症対策などについて話し合われた結果をもとにマニュアルを作成するなど、サービスの改善に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族に広報誌「那賀川たんぼぼ」と個別のお便りを送付し、利用者の日々の暮らしぶりを報告している。意見などは利用者全員の家族が参加する運営推進会議を通して聞き、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員は近隣住民を訪問して手作りの広報誌「那賀川たんぼぼ」を配布している。また地域のお祭りや運動会にも参加している。事業所での行事には近隣のボランティアや子どもたちの参加があり、交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者の尊厳をお守りし、家庭的な暮らしをお手伝いします」、「地域の皆様と連携し、地域に貢献することを目指します」といった事業者独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を共有し、毎月初めに理念を唱和して意義を確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は近隣住民を訪問して手作りの広報誌「那賀川たんぼぼ」を配布している。また地域のお祭りや運動会にも参加している。事業所での行事には近隣のボランティアや子どもたちの参加があり、交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめ全職員は評価の意義を理解し、外部評価での課題や自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、老人会会長、婦人会会長、近隣住民、消防団団長と団員、警察署職員、市町村職員、地域包括支援センター職員、保健所職員、併設事業所の職員などが参加している。会議では参加者からの質問や意見、要望等を出し合い、積極的に協議されている。防災訓練や感染症対策などについて話し合われた結果をもとにマニュアルを作成するなど、サービスの改善に活かしている。しかし、会議録は全職員への回覧時の確認印・サインがない。	○	会議録や職員間で共有することが必要な記録類には、回覧の後、確認印・サインを残すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市町村窓口を訪問し広報誌「那賀川たんぽぽ」を手渡したり、事業所の利用状況や活動状況を報告したりしている。また情報収集や意見交換を行うことでサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、広報誌と併せて個別のお便りを送付し、生活状況や健康状態を家族に伝えている。また体調の変化時などには電話で連絡するなど一人ひとりに合わせた報告を行っている。金銭の立替分については家族の来訪時に支払ってもらい、領収書を渡している。しかし、出納簿などは作成されていない。	○	金銭管理については、家族に渡した領収書の控えを残したり、出納簿などへの確認印・サインをもらったりするなどの取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などは意見箱や利用者全員の家族が参加する運営推進会議を通して聞き、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるよう努力を行っている。やむを得ない場合には利用者一人ひとりに丁寧に説明し、不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は全職員が参加できるよう努めている。外部研修については、交代で出席できるよう配慮し、サービスの質の向上に活かしている。しかし、研修計画は作成されていない。	○	職員各自の段階に応じた学びの機会を確保するためにも、年間計画を立てるなどの工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にある数か所の同業者と行き来する機会を設け、お互いに情報収集や意見交換を行い、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や職員の様子などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら体験入居や日中のみの利用などを支援し、場の雰囲気や職員などと馴染んでもらえるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から季節の行事を教えてもらったり、調理などの家事を分担したりすることで共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活や会話の中から一人ひとりの暮らし方の希望を把握している。また意向の把握が困難な利用者には家族と相談し、生活歴や習慣をもとに本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のミーティングや毎週のカンファレンス、毎月の会議やアセスメントから問題点や課題を見出し、家族からの希望や意見なども取り入れ、チーム全体で利用者本位の介護計画を作成している。計画書には家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また利用者の状態や希望の変化、家族の要望等に応じて随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、利用者の状態や家族の要望等に応じて受診支援などを行っている。また外出や買い物などへの支援も柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。また協力医療機関の医師から週に2回、訪問診療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合や終末期に向けた対応の同意書もらっている。方針は家族や医師などの関係者間で話し合い、全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーの保護に努め、食事の食べこぼしを片付ける時などにはさりげない支援を行っている。記録等の個人情報は、管理規定にそって取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事への参加などは利用者一人ひとりのペースにそって支援し、生活歴や好み、習慣を重視した取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嚥下能力に合わせた食事形態を工夫している。利用者は職員と一緒に調理や後片付けなどを行っている。また3食とも利用者と職員が同じ食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や必要に応じてシャワー浴や足浴を行っている。一人ひとりの習慣を大切にして、希望にそった入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じて洗濯物たたみや食事の準備、後片付けなどの役割を支援している。また買い物や遠足、日帰り旅行などのレクリエーションを取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や季節に応じて事業所周辺への散歩や外気浴などを支援している。歩行困難な方も車いすですぐに外出できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに自由に出入りができるよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からの指導を受けて避難訓練を年に2回実施している。夜間の避難経路は大きく掲示し、分かりやすい工夫している。緊急時の対応マニュアルも作成されている。また地域のネットワークを活用して自主防災組織を結成し、協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者一人ひとりの嚥下能力に応じて調理し、摂取しやすいよう工夫している。また食事・水分摂取量を記録し、母体病院の管理栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は木造2階建てで天井が高く、天窓から入る日差しは明るい。共用空間には書道やちぎり絵の作品などが飾られ、季節感を感じられるよう花を生けるなど居心地よく過ごせる工夫が行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には炬燵や箆筒、机、写真など使い慣れたものや好みのもが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配置されている。		